

対立と、多様性の拡大解釈がもたらしたもの

転ばない家についてお話をしようと思っておりましたが、急遽内容を変えてお話をさせていただきます。

7月に入り、政治的・宗教的な対立を象徴するような報道が次々に報じられました。8日（現地）、フランス議会選の結果、左派連合の逆転勝利もユーロ議会は右傾化、ウクライナ小学校をロシア軍が爆撃。13日（現地）、トランプ前大統領暗殺未遂事件発生。20日、イスラエル軍がイエメンを空爆。21日（現地）、共和党大会終了後、バイデン大統領が次期大統領選挙不出馬を宣言。24日、ネタニアフ・イスラエル首相のアメリカ議会で更なる武器供与を求めて4度目の演説。

オランダ生まれの心理学者[フランス・ドゥ・ヴァール](#)氏は、宗教の起源について、霊長類・イルカ・クジラなど社会性動物が「価値ある集団生活のために自己の振る舞いを抑制するか変えなければならなかった」こと（道徳）が宗教の起源だと述べています。だとすれば、政治も宗教も、相手を打ち負かすのではなく、ロータリーの四つのテストに照らして「振る舞いの選択肢を増やす」ために活かして欲しいものだと強く感じています。

5日、イランでは欧米と対話姿勢をとるペゼシュキアン氏が大統領に当選。イラン国民が長く続く欧米との対立に辟易とした結果のように私は思いました。

さて7月26日からパリ・オリンピックが開催されます。しばらくは、政治的・宗教的な対立ではなく、すがすがしいスポーツの祭典に目を向けることができるので、ホッとしています。

日本のマスメディアは、公共の電波を使い、東京都知事選の立候補者があまりにも多かったことを理由に政策論争は行わず、政見放送で脱衣行為を放送しました。他にも短時間で天気が激変する首都圏のゲリラ豪雨を西から東へと生中継もしました。1957年に大宅壮一氏が発した「一億白痴化」。後に松本清張が「総」を付け加えた「一億総白痴化」へと先導するような放送を、ロータリーの四つのテストを広め、一刻も早く断ち切りたいと私は考えますが、皆さまいかがでしょうか。